

会 議 録

会 議 の 名 称	令和２年度第１回行田市市民公益活動推進委員会
開 催 日 時	令和２年６月１８日（木）開会１０時００分・閉会１１時３０分
開 催 場 所	行田市コミュニティセンターみずしろ ギャラリー
出 席 者 氏 名	生沢弘幸 平間道代 山口尚美 羽鳥優治 小池佐栄子 金原二郎 島田晴義 今村武蔵 松井秀二郎 石橋和夫 田口泰大 小林健 田尻要 阿南健一 横倉喜和（代理：渋谷純一） 〔オブザーバー：ものづくり大学大学院生 新井〕 ※敬称略
欠 席 者 氏 名	澤田春雄 智田輝史 石川忠彦 瀬場一隆 ※敬称略
事 務 局	地域づくり支援課：岡戸課長、風間主幹、内沼主査、黒澤主任及び市民活動サポートセンター職員１名
会 議 内 容	１ 委嘱状交付 ２ 自己紹介 ３ 委員長の選出及び委員長の職務代理者の氏名 ４ 委員長挨拶 ３ 議 事 （１）会議録の作成及び会議の公開について （２）委員の代理出席に伴う委任状の取り扱いについて （３）市民公益活動推進基本計画の推進について （４）行田市市民活動やる気応援助成金について （５）その他
会 議 資 料	（１）資料１ 行田市附属機関等の会議録の写し及び会議資料の公表の方法に関する要領 （２）資料２ 行田市市民公益活動推進委員会会議傍聴要領 （３）資料３ 行田市市民公益活動推進委員会設置条例 （４）資料４ 代理人選任届 （５）資料５ 市民公益活動推進基本計画 （６）資料６-１ 令和１年度行田市市民活動やる気応援助成金募集要項 （７）資料６-２ 行田市市民活動やる気応援助成金の申請取扱いについて
その他必要事項	傍聴人なし

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会 松 井 委 員 司 会 田 尻 委 員 司 会 委 員 長 委 員 長 阿 南 委 員 委 員 長 議 長 事 務 局 議 長	1 開 会 ・開会を宣言 ・会議成立の旨の報告（過半数の委員の出席による） ・傍聴者数の報告 など 2 委嘱状交付 3 自己紹介 4 委員長の選出及び委員長の職務代理者の指名 ・資料3「行田市市民活動公益活動推進委員会設置条例（以下、「設置条例」という）」第5条第1項にて「委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める」と規定している。委員長を選任するにあたり自薦または他薦をお願いする。 ・昨年まで委員長を務めていただいた、ものづくり大学の田尻委員を推薦する。 — 拍手 — ・他の委員から賛同をいただけたが、田尻委員よろしいか。 ・了承する。 ・続いて設置条例同条第3項「委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代理する。」との規定に基づき、委員長より委員長職務代理者の選任をお願いする。 ・埼玉県利根地域振興センターの阿南委員にお願いしたいと思うのですがいかがでしょうか。 — 拍手 — ・他の委員より賛同いただけたが、阿南委員、よろしいか。 ・了承する。 5 委員長挨拶 6 議題 (1) 会議録の作成及び会議の公開について ・事務局より説明をお願いします。 ・資料1、2に基づき説明。 (2) 委員の代理出席に伴う委任状の取り扱いについて

松井委員 事務局	・申請時期は随時というわけにはいかないのか。申請する側からすると、「いつでもいいよ」というのがよい。締め切りがあるのではなく、団体の会議等でいいよねと思うことがあれば、すぐに市に提案したい。やりたいと言ったとき、随時委員会を開催してもらえるほうがよいと思う。 ・4～5年前、締め切りはなかった。申請がある度に委員会を開催していた。実際は、申請があり、委員会を招集し、そこで決定してから事業をはじめることができるという一連の流れに時間がかかってしまった。そこで現在の申請時期を3回に設定した。しかし、3回に設定すると、12月の申請では事業の実施期間が3月までなので、短い等の問題もある。そこで、他市や民間の助成金の状況を確認したところ、来年度の事業について、今年度中に申請する。決定すれば、事業実施期間が4月～3月となり、計画しやすいのではないかと考えたため、今回の提案をした。いかがか。
今村委員	・申請のタイミングが1回というのはわかりやすくいいと思う。しかし、問題は申請が1件もないこと。助成金の実績がないことに問題があると思う。
生沢委員	・松井委員の案に賛成。昨年申請をしようと思ったら、12月10日までに書類を用意しなくてはならない。申請書をもって初めて必要書類を知った。市民活動をやりたいと思っていても、期限までに書類が間に合わず申請できないというのは非常に残念な事だと思う。委員会自体が定期開催ではなく、随時開催なのだから、広く市民からの申請を受けて、事務局がその都度委員会を招集すればいいのではないかと思う。
議長 松井委員	・みなさんいかがか。 ・今村委員も発言していたが、実績がないということをどうとらえるのか。市民活動自体が縮小傾向、市民活動をはじようとしている人がいないのか。それとも、制度的に使いづらいから申請がないのか。どちらにせよ、ゼロということに問題があると思う。他市では助成実績があるわけですし。
石橋委員	・この助成金だと、やる気のあるイベントの開催について、1回目は助成金がもらえる。しかし、翌年以降はもらえない。3年に1回もしくは4年に1回もらえるといいと思う。1回きりのイベントになってしまうことも多い。毎年イベントの名前を変えて申請するというのもありだと思うが、新たな取り組み

	としてだけではなく、継続事業としても申請できる助成金であるといいなと感じるのだが。
平間委員	・申請が年3回というのは妥当だと思う。それぞれの期間が3か月あるのだから、準備期間としては十分だと思う。むしろ3回もあるんだという印象。 ・石橋委員の3年に1回等、もう一度助成金がもらえるという提案には賛成。
議長 事務局	・様々な意見ありがとうございます。事務局いかがか。 ・周知期間のこともあり、今年度はいままでのやり方でやるしかないと考えている。今検討している制度については来年度からの実施になるかと思うのだが。
議長	・今検討している制度は、来年度以降ということになるが、なるべく早く決定し、周知期間をもうけるようにしたい。 ・次の3つ意見があった。 ① 随時受付 ② 申請のハードルが高いのか ③ 継続性 ・①について以前は随時だった。その後3期制になった。随時でも期を定めても申請がなければ意味がない。ではどうして申請がないのか。それは②のハードルが高いのかかもしれない。書類の作成が難しい等を理由として考えるわけですが、実際そこまで大変ではない。この助成金は税金を使うものですから、ある程度の書類を整えるという側面は否めないように思う。とはいえ、皆さんに1から10まで書類作成してねというわけではなく、サポートセンターがあるわけです。スタッフが相談にのるし、書類作成のサポートをします。そのための、サポセンですから。フォローできます。③の継続性については議論が分かれるところかなと。基本的には新しいことに挑戦したいという方のための助成金です。いつまで継続するかということにもよりますが、できれば活動団体のご自分の力でやっていくということが必要なのではないかと思います。それは放り投げるという意味ではありません。助成金漬けになってしまうことを懸念しているのです。とはいえ、財

	政的に厳しい弱い立場の団体からすれば継続が難しいということもあるでしょうし、継続性については我々で議論しなくてはいけないと思う。継続となると、限られた予算の中で、特定の団体に固定してしまうわけですから、新規の団体への間口が狭くなってしまいうという側面もある。極端な話、全ての予算が継続団体に使われてしまったら、新しいことをやりたい団体に助成できなくなってしまう。入口を絞るのか、今がんばっている団体を継続的に応援するのかどう判断するのかを議論しなくてはいけない。なぜ、申請が少ないのかということの本質を考えていかなくてはいけない。団体のリテラシーの問題かもしれない。団体を育てていく取り組みが必要かもしれない。何が原因なのかを冷静に判断していく必要があるように思う。
小 林 委 員	・私は以前のことはわからないが、今の話を聞いて感じたことがある。行田市の活性化が目的なのだから、浅く広く、少額でもいいから、全額をボランティア会に使ってもらえるような支援をするのはどうか。
議 長	・例えば、3万円以下であれば10分の10助成ということですよ。 ・浅く広くなのか、重点的になのかという議論ですね。 ・来年度からのことなので、早く決めなくてはならないが、今決定することは難しそうなので、今日はここまでにしようと思う。 ・事務局よろしいか。
事 務 局	・現在の申請時期3回だと、先着になってしまう。年1回の申請にすれば、頑張っている団体には多く助成金を出す等、金額を振り分けることができるという利点もあるのではないかと考えた。 ・年1回の申請にすれば、申請が少なかった場合に2次募集もできる。 ・今の助成金だと、新たな取り組みは1回のみ、スタート応援は団体で1回だけの助成になっている。他市の助成金を調べると、数年間継続して助成し、団体の基盤を作るというものもある。行田市としてそのような助成金にしたいと思う部分もある。でも、そこまでの議論ができていない。

議 長	新たな取り組みとスタート応援という枠の中で、どこまで申請しやすい制度にすることができるかを考えた。 ・新しい団体、これからやりたい団体のことを思うと締め切りを年3回にしたいという思いもある。改正案と矛盾してしまうが、葛藤しながらこの案を考えた。 ・今回の案を作成することに、私も関わっている。今までの議論の経緯等を踏まえて、今回の素案を作っている。今日いろいろな意見があったが、過去の委員会で議論したことや、以前の助成金のことをみなさん頭において意見してほしい。
今 村 委 員	・石橋委員の意見に関連するが、新たな取り組みをやるときは、団体もテンションが上がり、予算をつけられる。その新たな取り組みが公益活動として定着するかは、いかに継続できるかにかかっている。継続するにつれて、団体のテンションが下がってきたり、予算が組めなくなるということが実際おきている。その活動に公益性があるのであれば、継続的に支援していくことがあっていいのではないかと思う。
議 長	・ありがとうございます。参考にさせてもらいたいと思います。 ・私たちが継続性について批判的なものではありません。考えていました。ただ、新しい活動を応援したいという部分と矛盾することがあり、難しい。年間何件までは、継続団体に助成する等の議論することも大切になってくると思います。 ・この件については、ここで保留にしたいと思います。
事 務 局	(5) その他 ・彩サポだよりに今回新しく委員になったにりん舎さんが取り上げられているので、田口委員から紹介してもらいたいと思うのだがいかがか。
田 口 委 員 議 長	・彩サポだより 2020 年 6 月号の紙面を紹介。 ・以上で本日の議題は終了です。これにて職を解かせていただきく。 ○ 閉 会 ・閉会を宣言